

授業科目名	クリティカルケア看護学臨地実習	担当教員	◎櫻井一江、兼子裕美
選択	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：臨地実習 45時間

【授業概要】

クリティカルケアの看護実践を支える理論的枠組み、クリティカルケア看護を必要とする患者と家族の特徴とニーズ、クリティカルケア患者のアセスメント、クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア、過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア、クリティカルケア看護に必要な看護技術やマネジメント技術についてのコンピテンシーを臨地実習指導者と共同で、または監視の下で実践できる。技術面では、ACLS（看護師の役割の範囲内で行えるライフサポート技術）、心電図モニターの波形の解釈、人工呼吸器をつけた患者の看護、体液・循環管理、体温管理、コミュニケーション、廃用症候群の予防と管理等を含む技術を臨地実習指導者と共同で、または監視の下で実践する。

【授業目的・目標】

1. クリティカルケア看護に必要な理論と技術を臨地実習指導者のもとで、実践できる。
2. 侵襲的医療を受ける患者とその家族の看護を危機理論の視点から理解し、実践できる。

【履修条件】

「クリティカルケア看護学」を修得していること

【授業計画】

- [01] 実習 1 日目 各実習施設オリエンテーション (櫻井・兼子)
- [02] 実習 2～5 日目
各実習施設をグループ毎にローテーションで指導者のもとで看護実践及び見学をする
消防署 (1 日間) 救急救命センター (1 日間) ICU (2 日間) (櫻井・兼子)
- [03] 実習 2～5 日目
各実習施設をグループ毎にローテーションで指導者のもとで看護実践及び見学をする
消防署 (1 日間) 救急救命センター (1 日間) ICU (2 日間) (櫻井・兼子)
- [04] 実習 2～5 日目
各実習施設をグループ毎にローテーションで指導者のもとで看護実践及び見学をする
消防署 (1 日間) 救急救命センター (1 日間) ICU (2 日間) (櫻井・兼子)
- [05] 実習 2～5 日目
各実習施設をグループ毎にローテーションで指導者のもとで看護実践及び見学をする
消防署 (1 日間) 救急救命センター (1 日間) ICU (2 日間) (櫻井・兼子)
- [06] 実習 6 日目 グループワーク 実習のまとめ 評価面接 (櫻井・兼子)

【教科書】

佐藤まゆみ, 林直子 (2016) : 成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護 改訂第2版、南江堂
人間機能学、人間病態学、急性期成人看護援助論、クリティカルケア看護学で使用したテキスト

【参考書】

東めぐみ (2009) : 看護リフレクション入門 経験から学び新たな看護を創造する、ライフサポート社
道又元裕 (2018) : ≪系統看護学講座 別巻≫ クリティカルケア看護学 第9版 医学書院

【評価方法・評価基準】

目標評価 (60%) 課題レポート (20%) 実習参画度 (20%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

【事前学習】急性期成人看護援助論及び成人看護学臨地実習Ⅱ (急性期) の内容を復習しておく

【事後学習】実習最終日に各自経験した実習内容とグループワークから得た学びをレポートとして記述する。

【教育目標 (必須要素) との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ. テクノロジーを効果的に活用する能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅷ. 生涯に渡り継続して専門性を向上させる能力などの能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習後、評価面接を行い、行動目標を学生と一緒に評価しながらフィードバックをする。レポート、実習記録はコメントして返却する。

【備考】

*AHA BLS プロバイダーコースまたは日本救急医学会 BLS コースを受講していることが望ましい